大御番、二番

六

浪

内閣文庫
和書 類
三二五六九 號
三九二 冊
一五二函 一二一架

内閣文庫
番號 和 32569
冊數 394 (289)
函號 152 121

共六

国立公文書館
National Archives of Japan

天明四辰年六月廿八日

依田又十郎信久忌服

出雲守組在番中亘在番中病死

大御番永井兵庫頭組在勤

四男依田又十郎信次

天明六午年十二月廿八日番入水野大隅守組

天明八申年十二月廿七日致仕

天明四辰年六月廿八日

天明三卯年十二月廿日家督

大御番永井美濃守組　三百俵　婿入熊太郎 實方

婿入惣領 實父利兵衛

小普請組宮城久三郎支配

改 次郎兵衛

寛政京大坂の[illegible]年

二度

寛政元酉年十二月十九日新御番篠山吉之助組

天明四辰年六月廿五日

天明三卯年十二月十四日家督

大御番永井遠江守組　石川市右衛門一清実子
小普請組水野清六郎支配　六十九
三百俵　石川主税一時
改　岩之助

一時宿く東大坂の節之助子乃
寛政七卯年三月廿五日御徒大之進様の時

天明四辰年六月廿八日

永井藤右衛門時有惣領
去卯十二月依願川勝権之助ニ而死

大御番永井飛騨守組　二百石　永井久太郎時庸

改　喜左衛門

時庸ハ五之助の家督ニ付当年二十二才

寛政元酉年十二月廿九日御番入阿部備前守組

寛政三亥年四月廿三日致仕

同年九月十二日剃髪して久翁と云

天明四辰年十二月廿八日

篠山進八郎景純養子
小普請組天野山城守支配

安永二巳年十月八日跡目

大御番永井飛騨守組　二百俵　篠山小膳資寿

改　年廿六歳

寛政二戌年七月廿九日拝入勝田安藝守支配

寛政七卯年四月廿五日巣鴨稲荷祭
の御用あるよしにて勤め
其代りとして同所にて二百
六十坪の地を賜る

天明六午年十二月廿九日

大坂御番酒井隠岐守組 再勤 与力 仙波伊織種義

仙波三階種良忠厄

当分隠居組井上修理大夫組

後 七郎左衛門

種義京都大坂の官位並ニ系図等事

序く

天明六午年十二月廿九日

天明五乙巳年十二月十六日晦日

宮重八郎右衛門信昌養子惣領
小普請組水野大膳亮支配

大御番酒井隠岐守組 三百俵 宮重孫之助信敬
改 仙十郎

信敬二十五歳の宮重に養子ス事丙午度
天明八申年十月三日大的御覧の射手に
加りて時服二ツを賜る
同年十月十二日笠的御覧有りて
羅背板一反縞縮緬一反を賜る
寛政元酉年十月三日大的御覧射手に
列して時服二ツを賜る

寛政二戌年秋大坂城の張番にまかり
宿割をも務む
寛政四子年三月六日大的御覧の射手に
候して時服二を賜る
寛政五丑年夏二条城の番衆にまかり
御箱番等を務め御書院の小屋を
造りしとて明の年宿直まて帰りし
のち六月十二日営中に召されて白銀十枚を
賜る
寛政六寅年夏代りとして二条城に
まかりし　宿直す
寛政八辰年秋大坂城の張番にまかり

寛政九巳年十二月三日大御番組に
宿割をも務む
寛政十一未年　月　日京都の御番に
まかりて六波羅白銀十枚時服二を賜る
此後も此恩賜あり
享和二戌年四月廿六日一刀流剱術
御覧有て褒美二反を賜る
同年秋大坂城の張番にまかり
文化二丑年夏二条城の宿直にまかり
文化三寅年　月　日死卒

天明六午年十二月廿九日

天野平十郎政勝養子
小普請組酒井因幡守支配

大番酒井隠岐守組 弟之助 三百俵 天野金三郎政詮

天明七未年度二番掛の名並に候事

寛政元酉年五月三日 拝入 惜月 或郡支配

天明六午年十二月廿九日
伏見勤之節二条順番所
小普請組酒井因幡守支配
明和二酉年十二月廿六日御目見
大御番酒井隠岐守組　二百石　伏見銀蔵京林
段　伝左衛門
京林二条城の御金蔵に於て事有て一段
寛政二戌年十二月廿三日揚り入高木縫殿守支配
寛政四卯年四月七日致仕
同年同月廿五日盤下剃りて遁世と云
寛政七卯年七月廿五日死四十六歳

天明六午年十二月廿九日

二番 戸田可十郎 惣領嫡子

小普請大久保佐渡守支配 石谷 跡

天明元丑年八月十二日家督

大御番酒井隠岐守組 三百俵 戸田三平政義

改 荘左衛門

可十郎

政義義亡父大坂の御番ニ付参り候事ニ有之

天明七未年夏二条の御番ニ罷越候ニ付参り

明の申年十二月廿九日二条の御番上のとき

消防ニ付何も不ニて而右之節所

不慮之儀ニ而御作事ニ罷在

寛政二戌年三月晦日 騎射御試ニ出

御馬ニ而乗り相勤る

同年秋坂城の守衛ニ参りしに諸将乃
御用あまたは入寿ニ止る
寛政四子年三月二日大的御稽古射手に
列して時服二を賜る
同年十二月十八日諸射御稽古有て明の五日
営中に召されて黄金壱枚を賜る
寛政六寅年九月十二日諸射御稽古有て
羽織壱ツを賜る
同年十二月十二日上千葉の三ケ所に御鉄
砲の時御供ヲし侍して多く射当り同月
十三日営中に召されて時服二を賜る
寛政七卯年三月廿日大御将乃時

寛政十二申年七月廿四日大御番組氏
歩行役を勤む
享和二戌年七月朔日坂城の警衛よ
参りしは御眼白銀壱枚時服二を賜り
是より直番の度毎に御恩賜行り
文化二丑年夏二の丸城の守衛よ参り
文化四卯年秋坂城の警衛よ参り
文化八未年夏二の丸城の警衛よ参り
文化十酉年五月廿六日
菊千代殿乃用人
同年十二月十二日布衣を免さる

天明六午年十二月廿九日石高不安渡
天明七未年四月十三日
天明二寅年三月廿七日家督
大御番酒井隠岐守組
長田與市郎養周吉子
小普請組松平求馬支配
四百石　長田清兵衛道孝

道孝ハ兼て大坂の富豪より来る事あらく
寛政四子年夏二条城の警衛に差遣はさる
し時彼の合力金を請たるより事顕はる
寛政七卯年三月廿五日小普請入被仰付のうへ
歩行ならぬ事となりし
寛政十午年九月廿三日大目付の宅へ被召
列して切腹ニ及ぶ

寛政十一未年夏二条城の宿衛をも兼り
御鉄炮奉行と勤む

寛政二戌年四月廿七日

天明五乙巳年十二月廿六日御目見

中沢主税介清吉惣領
小普請組浅野佐渡守支配

大御番岩出羽守組 當戌二十二 中沢老之助清繁
改 主税助

清繁は第七坂の御番に籍を事す
寛政五丑年夏二条城の御番に参り時
御手葉の差副と勤む
寛政六寅年市ヶ谷加賀屋敷の御鉄炮よ
かへりて
寛政十未年夏二条城御番所のとき
先手の役と勤む

文化三寅年六月廿七日大御番組入

文化五辰年七月朔日於城内家並ニ
金子八両御縮白銀拾枚時服二ツ賜ル
此後も此恩賜アリ

文化八未年　二条城御殿之番ヲ勤ム

文化十戌年秋於城内諸番ヲ勤ム

文化十三子年九月十四日辞入頭病卒年八十七

寛政二戌年四月十七日

石野藤十郎[illegible]
小普請組阿部[illegible]支配

享和四子年五月廿四日跡目

大御番[illegible]出羽守組　忰　石野清三郎善明
改新十郎

善明事大坂[illegible]

文化七午年五月十四日[illegible]

寛政二戌年四月廿七日

山下長右衛門元亮養子
山本孫次郎組阿部越前守支配

寛政元酉年閏六月二日跡目

大御番阿部出羽守組　三百俵　山下長右衛門元意

元意家ハ古坂の號ニ據リ系譜ニ於て
寛政七卯年三月四日十六歳ニ而御持の
出羽組ニ出役と相勤ル
同年四月廿二日東公新流組術宝蔵
院流十文字由流槍術御稽古被仰付て
獨相支へと號る

寛政八辰年六月十六日三宅出雲守
種周相伝の印可として日本伝軍学
修試により同月廿一日営中に
おゐて常に軍学心かけ候
一段の事と思召旨太田備中守
資愛相伝へらる

享和元酉年十月晦日新御番書院常山右京亮組

寛政二戌年四月廿七日
安永三午年十月六日誕日
大御番書院番出羽守組
神田内記将興忠氏
小普請組支配主税支配
嫡　神田吉五郎将武
改　三五郎
将武元大坂の御番にて奉る事なく
寛政七卯年三月六日本人隠居将乃付
歩行勢子と称む

寛政二戌年四月廿七日

天明元丑年八月十三日家督

大御番曽我出羽守組　三百俵　戸田八郎捷重

戸田宇三郎忠捷惣領

小普請組三木能登守支配

捷重　亥年大坂の在番にて事に係りて

寛政六寅年九月十五日武術見届て

褐物二反を給る

寛政七卯年三月五日小金御狩のとき

歩行勢子を勤む

文化十酉年二月七日大御番組入

文化十一戌年七月朔日在城の宗家に

年迄は御帳面損料附ニ而有之候

以而も右之通之毎ゟ出息帰参

文化己巳年春二条城の定番ニ参る

寛政二戌年四月廿七日

安永九子年九月六日誕月

大御番[illegible]出羽守組

三輪甚左衛門久富忰

小普請組三宅[illegible]支配

三百俵　三輪甚左衛門久武

改甚左衛門

久氏弟大坂の定番ニ参る

寛政十午年十月十二日　新御番曲淵和泉守組

寛政二戌年四月廿七日
柳井仁左衛門次男嫡孫養祖
柳井九郎三郎次男養老所
小普請組保田弥郎支配
天明八申年十二月廿七日家督

御書院番出役手組　三百俵　柳井吉之丞改次吉
九郎三郎
仁左衛門

次吉事大坂の新三郎より年中事なく
寛政七卯年三月晦日大ニ御将の付
歩行物ニとも相勤

寛政二戌年六月廿七日
肥田文左衛門頼質惣領
天明元丑年十月廿九日家督
小普請組石谷安房守支配
大御番組出羽守組　二百五十石　肥田富之助頼英
頼英二条城の宿直にて卒す年
廿七歳
寛政十午年十一月廿日番入阿部大学守支配
寛政十一未年七月廿二日致仕

寛政二庚戌年四月廿七日

丸毛大之丞利忠惣領

小普請組頭勝田安藝守支配

安永八己亥年十二月廿六日御目見

大御番岩城出羽守組　二百俵　丸毛孫三郎利春

利春事大坂の定番より年々事代人丸

四五度大番一度母の看病として

永怠らす

寛政三辛亥年十月廿二日寸的御覧有て

褒物に銀を賜る

寛政六甲寅年九月廿九日大的御覧の射手に

列して時服二を賜る

寛政八辰年秋坂城の法憲に拘りしに
病ありし明る

寛政九巳年四月廿八日於二条城病死三十六歳
利春ヵ骸を大坂谷町筋上寺町
本長寺ニ送る
同年四月十三日利春去年辰より
久しく事なりき八湯を治として
自服取ふと聞るの作をとる

寛政二戌年四月廿七日
天明二寅年八月廿七日始目
大番書院出羽守組　二百俵　山角岩五郎武丈
山角次郎兵衛可由養子
小普請組勝田安芸守支配宇三郎
後　宇左衛門
武丈系大坂の高並に当る事
なし
寛政七卯年三月五日大坂御在番の時
出羽様かありしと聞ゆ死

寛政二戌年四月廿七日
竹内十左衛門幸長惣領
小普請組今田近江守支配
寛政元酉年七月八日跡目
大御番酒井出羽守組　二百石　竹内新五郎幸隆
後　十左衛門
文化八未年閏二月廿日　大御番組頭
幸隆事大坂の節在番中年番へ
同年同月　日　二ノ丸城の節在番中
手当は御暇白銀拝領被仰付候
何れも御恩偏く
文化十戌年秋坂城の節在番中
文化十四丑年夏二ノ丸城の宿直中

寛政二戌年四月廿七日

山角四郎左衛門久邦 嫡子

当時御書院組今西近江守支配

天明七未年三月十七日婿

大御番阿部出羽守組 二百俵 山角圓之丞久林

後 権之助

久林 実ハ大坂の者成ニ奉公

寛政四子年七月廿日麻布の出火

かゝ表六番町の邸類焼いたし

寛政七卯年三月廿四日 御小姓の時

歩行鍛錬と申事免

享和元酉年四月廿四日 念流 被御

御覧有て褒美に刀を賜る

寛政二戌年四月廿七日

荒川源右衛門政将二男[illegible]氏

小普請組石河壱岐守支配

寛政元酉年十二月十九日家督

大御番石谷出羽守組　二百俵　荒川三四郎重久

改　主水

同年秋坂城の諸備よ加り

寛政四子年八月廿七日　辞入酒井紀伊守支配

寛政八辰年十二月十九日致仕

寛政三亥年十二月二日

大御番小笠原近江守組久保島兵賀忠次

大御番曽我出羽守組　二百俵　山崎熊次郎兵衛

衛六歳大坂の節儒文章等学ひ
寛政七卯年十二月二日寛的御覧有て
ヘルヘト一反絹紬一反を賜る
寛政十午年九月十二日曲馬御覧有て
縮緬二反を賜る
同年同月廿二日大的御覧之射手に列して
時服二を賜る

享和二戌年十二月廿三日萬歳御覧有て
縮緬二反を賜る
文化元子年十月十日大的御覧有て
時服二を賜る
文化三寅年九月廿七日圓物御覧有て
縮緬二反を賜る
文化四卯年正月十一日御弓場始めの
射手に列して時服二を賜り此の十二日
営中に百手射て黄金二枚を賜る
文化九申年正月十一日御弓場始の射手に
列して時服二を賜り此の十二日営中小
百手射て黄金二枚を賜る

寛政三亥年十二月廿二日

上田三左衛門元居悴
小普請組八木十三郎支配

寛政二戌年七月廿九日家督

大御番曲淵甲斐守組　二百俵　上田乙三郎元道
後　三左衛門

元道三弟之段の騎之儀ニ年〻奉勤
寛政四子年四月廿二日騎射御覧有之て
褒美銀三枚を賜る
寛政六寅年九月十二日同し業御覧
以別て褒美銀三枚を賜る
同年同月廿九日大的御覧の射手ニ
侍して時服二を賜る

同年十二月廿九日騎射御覧有て明の
廿九日営中にて召されて黄金二枚を賜る
寛政七卯年三月二日大納言御将のまき
莚騎るを務免
寛政八辰年四月廿六日騎射御覧有て
褒美時服三を賜る
寛政十午年三月廿九日同し事御覧
有りし褒美時服三を賜る
同年九月廿二日中松川のほとりに
御放鷹の時弓御用を務む
同年十月廿二日騎射御覧有て明の
廿三日営中にて召されて黄金二枚を賜る

寛政十二申年十月廿七日中川のほとりに
御放鷹の時御供うに候して弓射を
同月廿九日営中にて召されて時服二を賜る
享和元酉年三月晦日騎射御覧有て
褒美時服二を賜る
同年十二月七日同し業御覧有て
明の八日営中にて召されて黄金二枚を賜る
文化三寅年十二月九日騎射御覧有て
褒美時服二を賜る
同年十二月七日騎射御覧有て明の
八日営中にて召されて黄金二枚を賜る
文化十酉年七月八日 大御番組に

同年　月　日坂城の宿直ニ参りしハ
御暇白銀拾枚時服二を賜る是より
以後も此恩賜あり
文化十五年夏二条城の宿直ニ参る

寛政四子年十二月晦

大御番[illegible]出羽守組

中人但沢金兵衛与之丞文成書所

百俵　近藤戦六郎文敬

後　甚之丞

文敬三十七歳の寫書にて三十七年

三歳之

寛政己酉年十二月廿二日

天明二壬寅年十二月廿六日誕生

西尾忠三郎正一養子

小普請組渡辺佐渡守支配

大河内善兵衛出羽守明之組頭 西尾亀之助正永

正永二男儀の病症に付年十六歳

寛政八辰年五月廿二日 婿入 南部主税支配

同年十二月八日死 享年十五歳

寛政四子年十二月十二日

小林吉五郎隆縁無瓜
書院組近藤左京支配

天明二寅年四月二日始

大御番永井出羽守明之組 書院番右 小林専次郎正尊
内二百石宛俵

寛政元酉年三月二条城の御在番に参り
寛政八辰年秋坂城の御在番に参る
ついでに書の虎ひかえて江府に止りても
寛政十午年又二条城の御在番に参り
享和二戌年四月廿六日宝蔵院流槍術
御覧に付て褒美に反物を賜る
同年秋坂城の御在番に参り

文化元子年五月廿日 西丸新御番 大屋丹後守組

寛政四子年十二月廿三日

寛政二戌年四月廿五日家督　田村伊右衛門長男実ハ悉尺
小普請組酒井紀伊守支配

大御番岩瀬出羽守明成組三番　田村伊右衛門長章

長章事大坂の銃卒衛ニ手事なく
寛政六寅年夏二条城の鉄炮衛ニ参り
寛政七卯年三月五日 大令御将乃時
延疑てると願免
寛政八辰年秋坂城の鉄炮衛ニ参り
御所役奉行と相勤む
寛政九巳年其代人として 坂城よ

寺川にて宿坊(?)事

寛政四子年十二月廿二日

天明四辰年六月廿九日済

大番組出羽守明達(?)

真野政寄(?)二男春日女(?)
中書院(?)陽野隼人八十才死

三百俵 真野主水高

改 右近

西高二本立坂の宿並(?)へ参る事

云々

文化八未年十月廿三日

三条家(?) 死亡家(?)

寛政四子年十二月廿三日
深尾彦二郎元長養子
小普請組武田伯耆守支配
天明八申年七月二日御目見
大御番安部出羽守明組二百俵　深尾従次郎元親

元親京大坂の宿衛に八年の事なく
寛政七卯年三月廿一日小金御狩の時
歩行勢子と勤む
寛政九巳年十二月廿九日巣鴨の火災
みゝく小石川の邸類焼をまぬかるゝ

文化五辰年四月十二日新御番大政信濃守組

寛政四子年十二月廿二日

窪田幸之丞勝克惣領
小普請組内藤甲斐守支配
安永三午年八月十一日生

大御番富部出羽守明キ組 二百俵

窪田助左衛門勝英

勝英事大坪流の弓術は家ニ而修く
寛政六寅年十月九日弓射御覧
ニ付て羅背板一反綿紬一反を賜る
寛政七卯年四月廿二日弓術御覧有て
縮緬一反白羽二重一反を賜る
寛政八辰年三月十日大的御覧の射手に
列して時服二を賜る

同年四月廿五日　騎射御覧有之く
帷物三反之を被下置候
寛政七卯年三月十日　大公方様御将の時
歩行勢子を相務む

寛政巳丁年十二月十三日
天明元丑年七月八日生
大御書図部出仕見習　二百俵　石巻鉚次郎　十四才
石巻今年御目見出仕
小普請組石川組以下支配
同年二月大坂の節勢子事務く
寛政七卯年三月十日　大公方様御将の時
歩行勢子を相務免
同年十月八日　草原御鷹見有之帷物
二反被下置候

寛政六寅年五月廿一日

御本丸御裏御門番之頭山崎一郎右衛門成堯惣領

大御番松平中務守組　三百俵　山崎吉内明堯

後現米八十石

明堯京大坂の勤番を年々勤む
寛政六寅年十月八日其芸御覧有て
さらさ一反唐桟留一反縞紬一反を賜る
寛政七卯年三月五日大會御狩の時
駈騎馬を勤む
同年十二月廿七日病因現米八十石
是までの三百俵ハ返上する

寛政八辰年三月十日大的御覧の節目に
併して時服二を賜る
寛政十午年三月廿二日大的御覧有て
賜物二支と賜る
寛政十一未年十二月十二日御弓場始の節目に
併して時服二を賜る同月十八日
営中にて百さしまて黄金二枚を賜る
文化三寅年十二月四日大松河の辺りにて
御放鷹の時御供として併して
弓射留同月二十日営中にて百さしまて時服
二を賜る
文化十酉年十二月廿八日御具足奉行

寛政八辰年十二月十五日

川勝次左衛門勝韻養子
小普請組巨勢六左衛門支配

寛政元酉年四月廿二日家督

大御番松平下野守組 苗字儀川崎氏名勝久
改宗左衛門

勝久儀大坂の御番より帰り候年六月
寛政九巳年十二月晦日養母并義弟刀守妹方へ参り
出奔し候の年正月廿三日先勝く
あらしと仰付六月六日尋ね候へしと
仰有りく十月三日御預ケ被仰付候へしと
致仰付十二月廿三日免ぜらる
享和二戌年二月廿三日大病にて絶家の村之

列して財勝にて終る

寛政八辰年十二月廿五日

寛政七卯年十二月廿九日家督　嫡孫　左衛門嫡孫西丸大番 小普請組支配 主税忰死

大御番松平下野守組　三百俵　嫡孫富次郎西脇

西脇京大坂の事云々

寛政八辰年六月十五日

寛政七卯年四月廿八日家督

曲淵勝左衛門正續養子
米津出雲守組山口勘兵衛次男

大御番松平下野守組 三百三十石 曲淵亀之助 西石

改 勝左衛門

西石二番大坂の宿直に参し

享和二戌年二月廿三日大御所様御覧の

射手に列して時服二を賜る

寛政八辰年六月十三日

大御番松平下野守組

松岡五郎兵衛養子而能登子
小普請組仙石□之儀十之死

二百俵　猪飼五郎兵衛悴西蔵

改　五郎助

西蔵京大坂の□之儀小□ず年[illegible]く

寛政四子年三月廿二日中詰□□絶奉て

罷在候所一　右之品之者又ハ□と[illegible]る

享和元酉年十月九日翻之中五郎西蔵

罷戻りて中追放小□文□□之は

[illegible]後

御座候

享和二戌年十一月廿二日弟康隣隠居有之く
嫡物死ニて継る

寛政十午年十二月廿三日
寛政七卯年四月廿八日家督
中根織部正英春養子
小普請組仙石近江守支配
大御番長谷川丹後守組 音吉 中根斧三郎正信
改 平八郎

正信ハ本家の坂の家督ニ依て家を継ぐ年
彦く
享和元酉年二月十九日大納言様の
附ニ列して時服ニ上賜る

寛政十午年十二月廿三日
同苗甚四郎惟傳惣領
小普請組阿部大学支配
寛政二戌年七月二日家督
大御番長谷川丹後守組罷在候　同苗十左衛門惟中
寛政十一未年夏二条城の勤番に罷
享和二戌年七月十日御小納戸
同年十二月十八日布衣を免さる
享和三亥年七月十三日御小性組水野
石見守組江御番入

寛政十午年十二月廿三日　西丸小十人頭石尾七兵衛弘栄養子

寛政四子年十二月十五日跡目　小普請組溝口相模守支配

御書院番長谷川丹波守組　番入　西丸小十人頭主膳弘宝

弘宝ハ家業之弦の高木に八年之事なく

享和三亥年十月九日大御所御覧乃

射手に列して時服二を賜る

文化七午年十二月廿三日　西丸新御番渡辺土佐守組

寛政十午年十二月廿二日

寛政九巳年四月廿二日家督

酒井雁之助道達二高養子

小普請組佐野肥前守組明き跡

大御番長谷川丹後守組　二百俵　酒井六之助道利

寛政十一未年夏二季増乃書出

未る

寛政十午年十二月廿三日

寛政二戌年十二月廿四日跡目　吉野源之丞信栢惣領

小普請組堀田三郎右衛門支配

大御番長谷川丹後守組　百俵　吉野伊之丞信明

同日勤めしの内百俵をあたへらる

伊之と名乗る

寛政十一未年夏京都の御番ニ参る

享和二戌年秋大坂城の御番ニ参りしに

病にて明の年

享和三亥年四月廿日於大坂城在番中死　四十七歳

寛政十未年二月廿二日　石川岩之助次房忠辰

天明五乙巳年十二月廿二日家督
寛政九巳年閏七月六日御目見到来

甲府勤番松平三十郎支配

大御番長谷川丹後守組　三百俵　石川五郎右衛門次祥

改　二十年

同年二月十五日二条城の御番相勤候ニ付
御服白銀拝領と有之　去ル亥年
京大坂の御番相勤候ニ付

元禄十二卯年六月廿七日

松山惣検校和一養子
小普請松平主計頭組

御書院番新庄美作守組　番　松山安兵衛昌長

同年秋職禄の跡を継く

宝永元申年四月廿二日出羽奥州の国々巡見

裏面白紙

裏文書

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政十一未年十二月廿三日

寛政六寅年十二月六日勤番
寛政八辰年二月廿八日父死同苗

大御番長谷川丹後守組　二百俵　久保田源蔵政徳

久保田源之丞政智嫡孫養祖
久保田喜三郎政道実父
甲府勤番松平主計頭支配

政　助五郎

政徳京大坂の警衛より帰る事度々
享和二戌年二月廿三日大的御覧の射手に列して時服二を賜る

寛政十一未年正月廿一日

寛政二戌年五月廿四日御目見

大番長谷川丹後守組 二百俵 平井壽盛次懐

平井新八郎次男贅入無足

甲府勤番瀧川長門守支配

次懐 京大坂の定番に参る事

度々

享和二戌年三月十一日

御幕奉行本多金左衛門康命孫女聟書之

大御番長谷川丹後守組 三百俵 本多縫之丞安靜

享和二戌年六月二日

寛政九巳年四月十二日家督

遠山金次郎景保惣領

小普請組小笠原若狭守支配

大御番菅沼新八郎組

一　四百石　遠山銕十郎景晋

享和二戌年十一月二日

尾張多気信寿守養子
小普請組戸田中務支配
大御番青山新八郎組　当年若　尾張甚六信保
高百五十俵

信保ハ大坂の縁家ニ帰る

文化五辰年閏六月十二日番入　八木十三郎と改

享和二戌年五月二日

横山左衛門一毛惣所

小普請組酒依平十郎支配

大御番菅沼新八郎組　三百俵　横山五郎右衛門一義

改　五之助

一義京大坂の勤番未勤事候く
文化四卯年三月廿日大御番御役の列臣
列して皆申あけし遠く事有て
昔日恩情あつく旧月廿三日営中に
於て伊豆守信明朝臣仰を蒙りく
らまて時勝に仰せらる　此事同年十月にて御組小長谷十左衛門
御番入を務る大御番御役被仰付てより
のち見習の事務ならぬてなりとも

享和二戌年五月二日

松森左京右衛門政央惣領

寛政十一未年十二月二日跡目

小普請組本多[illegible]支配

大御番[illegible]新八郎組

現米 百五十石

松永金蔵政堅

政堅京大坂の富豪に参りて事し

旅行し

文化元子年十二月十二日

河村彦左衛門慶定養女

享和二壬戌年二月三日嫁

小普請依田組依田修理支配死

大御番竹中遠江守組　番衆　河村勇十郎慶勝

改　七郎左衛門

文化二丑年六月十三日死

一

文化元子年十二月十二日

鈴木清左衛門泰元二男惣領

小普請組西郷安房守支配

大御番竹中遠江守組 三百石 鈴木左衛門泰信

改 清兵衛

泰信事京大坂の名所に付参り候事

候ゝ

文化元子年十二月十二日　甲斐次郎理和惠氏

寛政九巳年十二月晦日　中書法組免自見友迎之死

大御番竹中遠江守組　三百俵　田中錦台理卿

文化元子年十二月十二日

大御番竹中遠江守組　二百俵　室　嘉十郎富保

室右膳富吉方養子

小普請組小笠原若狭守支配

富保京大坂の當番に参る

文化元子年十二月廿二日

布施西太夫盛次惣領

小普請佐野淡路守支配

大御番竹中遠江守組　二百俵　布施保之助盛記

段　八歳之勝

盛記ニ京大坂の歌之勝ゟ矢之事

云々

文化三寅年六月九日

冨士見御宝蔵番之頭間宮二右衛門信篤写所

大御番竹中遠江守組 二百俵 間宮長次郎信邦

文化三寅年十月三日

御膳物方久保彦三郎勝之惣領

御書院番中野遠江守組　二百俵　久保安之助勝喜

後十三郎

勝喜弟大坂の[illegible]ニ参る

三男后父勝之御膳物奉行と改ル　八

文化十三子年十二月九日　新番任　御書院番御小性組三番

曽我伊賀守組

文化三寅年十月二日

大御番田沼玄蕃頭組又兵衛忠尚惣領

大御番竹中遠江守組　二百俵　國領中書忠正

忠正京大坂の宿直に参る事

前々

文化三寅年十月三日

大御番大田志摩守組孝十郎友貞忠氏

大御番竹中遠江守組　二百俵　小長谷栄之丞友徳

文化五辰年五月十八日

寛政十一未年十月廿日晦日

大御番松平美濃守組

佐々木元左衛門西屋敷所

小普請組小濱長五郎支配

九百石　佐々木乙次郎両組

改　彦左衛門

両組　右弐人堀の儀御免之事

御ヘ

文化六巳年六月十六日

小林勝之助西隅四男惣次

小普請組逸見左近支配

文化元子年十月三日御目見

大御番松平土佐守組　養子　小林西之助西曉

政勝之助

文化四卯年閏六月廿五日

寛政十午年十二月廿九日家督

内藤源五郎正恒惣領

小普請組松平中務少輔支配

御書院番松平大隅守組　二百俵　内藤金十郎正廣

正廣ハ亭大坂の定番並に来る

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan